

# 若年女性のヘアカラーが服装色の適合感に及ぼす影響

A20AB043 熊倉 遥

## 1. はじめに

近年、若年女性を中心に、ファッションや美容に対する関心が高まっている。特に、ヘアカラーは自己表現の手段として広く用いられ、黒や茶色、金などのメジャーなカラーや、ピンクやイエローなどの奇抜なカラーも多く見受けられる。その他にも、最近では図1のように、2色以上を組み合わせるカラーリングなどヘアカラーを用いて様々な個性の表現が可能である<sup>1)</sup>。

また、高齢者が白髪染めを行う一方で、若者が白髪にしたり、白髪染めを奇抜

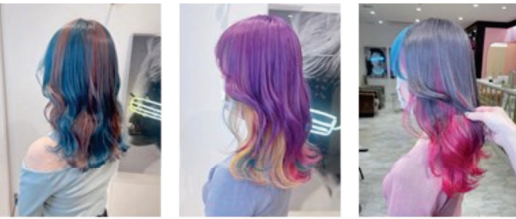


図1 マルチヘアカラー

な色で行うなど、様々な色やスタイルが増え続けている。服装色もファッションの一要素として重要で、個人の好みやイメージに合わせた色の選択が求められている。

しかし、ヘアカラーと服装色の適合は、外見を良く見せることに影響を与えるにも関わらず、ヘアカラーの決定は顔とのバランスから行われており、服装色との調和は考えられていない。石原らの研究では、若年女性の肌色とヘアカラーの組み合わせの要因について触れられており、ヘアカラーと服装色の適合感については触れられていない。外見をよく見せることにどのように影響を与えているか理解するためには、ヘアカラーと服装色の関係について探究することが必要である。

そこで、本研究では若年女性のヘアカラーと服装色の適合感に焦点を当て、関与する要因を明らかにすることを目的としている。これらを解明することは若年女性のヘアカラーの色範囲や、それに合わせた服装色の提案をすることができるだけでなく、新しいヘアカラーの選択肢を知り、ファッションの幅を広げ、新しいスタイルに挑戦することができる。また、商品企画において、若年女性が好むヘアカラーと服装色の組み合わせの提供が、商品開発の指標となることが期待できる。

## 2. 方法

### 2-1 実験試料の作成

Photoshopを用いて図2で示したように、ヘアカラーと服装色を変換した画像を作成した。ヘアカラーはピンク、ブルー、ゴールド、ブラックの4種を用いた。服装色は高彩度赤(PCCSのdp2)、高明度黄(It8)、高彩度緑(v11)、高彩度青(b18)、高彩度紫(b22)、および無彩色の白(W)、黒(Bk)の計7色で設定し、計28種を実験試料とした。



図2 若年女性モデル

### 2-2 実験方法

実験は、2023年10月に、女子大学生30名を被験者として、表1で示したように、28種の試料を提示し、SD法による5段階評定の官能検査を実施した。評価には「調和した-不調和な」「自然な-人工的な」「明るい-暗い」「派手な-地味な」「優しい-きつい」「上品な-下品な」「女性的な-男性的な」「個性的な-平凡な」「大人っぽい-子どもっぽい」「魅力的な-魅力的でない」の10形容詞対を用いた。得られた評価に1~5点を与え、平均官能量を算出するとともに、因子分析によりイメージ評価に関する要因について検討した。

表1 アンケート試料

| 服装色<br>ヘアカラー | dp2 | It8 | v11 | b18 | b22 | W | Bk |
|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|---|----|
| ピンク          |     |     |     |     |     |   |    |
| ブルー          |     |     |     |     |     |   |    |
| ゴールド         |     |     |     |     |     |   |    |
| ブラック         |     |     |     |     |     |   |    |

## 3. 結果及び考察

### 3-1 平均官能量

図3に10形容詞対の平均官能量を示した。まず「調和した-不調和な」について、ヘアカラーと同一色相が調和し、色相差、明度差のある服装色が不調和であるといえる。「明るい-暗い」「地味な-派手な」「優しい-きつい」「上品な-下品な」「大人っぽい-子どもっぽい」はどのヘアカラーも同じような傾向を示し、服装色の影響が大きいといえる。

「自然な-人工的な」「個性的な-平凡な」は、ブラックのみ離れており、ヘアカラーの彩度により評価されたと考えられる。しかし、白(W)、黒(Bk)の服装色はヘアカラーに関わらずほとんどの場合で似た印象を与えることが分かった。これらの服装色は無彩色であり、ヘアカラーとの色相差で注視されたと考えられる。ヘアカラーによって、ピンクは「派手な」と評価され、ブルーのヘアカラーは「人工的」「きつい」「下品」「男性的」「魅力的でない」と評価され、ゴールドのヘアカラーは「明るい」「子どもっぽい」と評価され、ブラックのヘアカラーは「自然な」「暗い」「地味な」「優しい」「上品な」「平凡な」「大人っぽい」と評価されている。

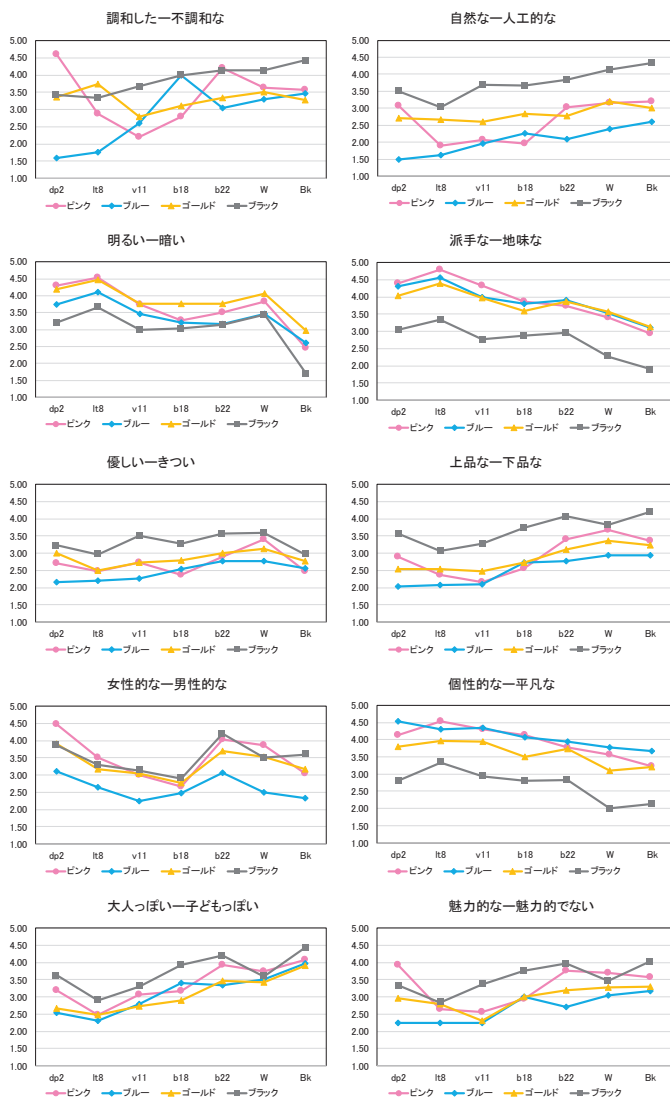


図3 平均官能量

### 3-2 因子分析結果

イメージに關与する要因を檢討するために、得られた平均官能量をもとに因子分析（主因子法）を行ったところ固有値1.0以上で2因子が抽出され、その累積寄与率は82.0%であった。第1因子で高い値を示したのは「自然な-人工的な」「上品な-下品な」「魅力的な-魅力的でない」「優しい-きつい」「調和した-不調和な」「女性的な-男性的な」の6形容詞対であり、これらを「評価性の因子」とした。なお、「自然な-人工的な」「上品な-下品な」「魅力的な-魅力的でない」「優しい-きつい」「調和した-不調和な」「女性的な-男性的な」の6形容詞対ともプラスの負荷量であることから、「自然な」「上品な」「魅力的な」「優しい」「調和した」「女性的な」が同一イメージで捉えられていることがわかる。

表2 因子分析結果

| 形容詞対         | FAC1   | FAC2   | 共通性   |
|--------------|--------|--------|-------|
| 自然な-人工的な     | 0.930  | 0.771  | 0.972 |
| 上品な-下品な      | 0.925  | 0.836  | 0.968 |
| 魅力的な-魅力的でない  | 0.895  | 0.680  | 0.937 |
| 優しい-きつい      | 0.819  | 0.525  | 0.825 |
| 調和した-不調和な    | 0.812  | 0.572  | 0.842 |
| 女性的な-男性的な    | 0.685  | 0.056  | 0.771 |
| 派手な-地味な      | -0.655 | -0.966 | 0.977 |
| 明るい-暗い       | -0.245 | -0.884 | 0.926 |
| 大人っぽい-子どもっぽい | 0.669  | 0.855  | 0.940 |
| 個性的な-平凡な     | -0.782 | -0.834 | 0.972 |
| 寄与率          | 67.6   | 14.3   |       |
| 累積寄与率        | 67.6   | 82.0   |       |

因子抽出法: 主因子法  
 回転法: Kaiser の正規化を伴うプロマックス法

表3 因子得点

|   | 髪    | 服装  | FAC1     | FAC2     |
|---|------|-----|----------|----------|
| 1 | ピンク  | dp2 | 0.84334  | -1.06591 |
|   |      | lt8 | -0.58999 | -1.61213 |
|   |      | v11 | -1.20797 | -1.26524 |
|   |      | b18 | -1.17027 | -0.14328 |
|   |      | b22 | 0.86432  | 0.09814  |
|   |      | W   | 1.5523   | 0.51776  |
|   |      | Bk  | 0.40721  | 1.25642  |
| 2 | ブルー  | dp2 | -1.7179  | -0.87728 |
|   |      | lt8 | -1.46783 | -1.4907  |
|   |      | v11 | -1.4542  | -0.46271 |
|   |      | b18 | -0.95068 | 0.01642  |
|   |      | b22 | -1.18462 | -0.26803 |
|   |      | W   | -0.47922 | 0.11939  |
| 3 | ゴールド | Bk  | -0.71147 | 0.91489  |
|   |      | dp2 | -0.51724 | -1.04879 |
|   |      | lt8 | 0.01106  | -1.28321 |
|   |      | v11 | -0.38852 | -0.56904 |
|   |      | b18 | -0.1768  | -0.29596 |
|   |      | b22 | 0.32277  | -0.38441 |
|   |      | W   | 0.79559  | -0.39273 |
|   |      | Bk  | -0.00651 | 0.54983  |
| 4 | ブラック | dp2 | 0.77583  | 0.58987  |
|   |      | lt8 | 0.25897  | 0.29658  |
|   |      | v11 | 0.63667  | 1.02137  |
|   |      | b18 | 1.22759  | 1.00011  |
|   |      | b22 | 1.81991  | 0.98189  |
|   |      | W   | 1.04539  | 1.08685  |
|   |      | Bk  | 1.46228  | 2.70991  |

第2因子では「派手な-地味な」「明るい-暗い」「大人っぽい-子どもっぽい」「個性的な-平凡な」の4形容詞対が高い負荷量を示し、これらを「活動性の因子」とした。なお、「派手な-地味な」「明るい-暗い」「個性的な-平凡な」の3形容詞対はマイナスの負荷量であることから、「地味な」「暗い」「大人っぽい」「平凡な」が同一イメージで捉えられていることがわかる。両因子に關与する試料について因子得点を算出したところ、第1因子には、ピンク、ブルーのヘアカラーと、その対極にブラックのヘアカラーが布置し、ヘアカラーが影響し、第2因子にはピンク、ブルー、ゴールドのヘアカラーの同系・類似の服装色と、その対極にブラックのヘアカラーが布置し、服装との配色が影響していることが明らかとなった。

### 4. おわりに

本研究では、ヘアカラーと服装色の組み合わせから得られる印象にどのような差異があるかについて、ヘアカラーと服装色を変化させて検討した結果、ヘアカラーと同色相の服装色が調和し、ヘアカラーによって与える印象が変わることが判明した。またイメージに關与する要因では、ヘアカラー4種ともに白の服装色などで「大人っぽい-子どもっぽい」のように、服装色による影響が大きいイメージが存在するとわかった。逆に「自然な-人工的な」や「個性的な-平凡な」など、ヘアカラーによる影響が大きいイメージが存在することもわかった。従って、ヘアカラー単独で色決めするのではなく、各自の服装色を考慮して選択する必要があることが判明した。

本研究を通し、ヘアカラーと服装色の組み合わせから若年女性が受ける印象が明らかとなったため、若年女性が好むヘアカラーと服装色の組み合わせの提供が今後の商品企画において参考になれば幸いである。また、ヘアカラーがファッションの一部として、自身の個性を表現するためのツールとしてより広く活用されることを願っている。

### 5. 参考文献

- 1) 石原久代, 大澤香奈子: 若年女性の肌色とヘアカラーのコーディネート要因について、名古屋女子大学紀要 家政・自然編51 1-10, 2005
- 2) 石原久代: ヘアカラーリング剤開発のための官能評価手法、Cosmetic stage、技術情報協会編、40-43, 2007
- 3) 平山 貴寛, 金澤 莉香, 戸田 和成, 萬成 哲也, 中嶋 礼子, 洲上 幾太郎, 細川 博史: 魅力的な髪への新たなアプローチ "Hair Medulla Care" 日本化粧品技術者会誌 57 (1), 35-41, 2023-03-20
- 4) 早川照美, 乾宏子, 丸山眞澄, 市場丈規: 背景色が肌の色の見えに及ぼす影響、日本色彩学会誌 42, 215, 2018